

「ミディアム・メルセデス」ヒストリー

1968~2007

1968

- W114/115シリーズのセダンが登場
- 2ドアクーペモデルの250C、250CEが登場



1972

- 2.8ℓ直6 DOHCエンジン搭載車を導入

1973

- マイナーチェンジで外観を変更

1975

- 3ℓ直5ディーゼルエンジンの300Dを追加

1976

- W123シリーズが登場

1977

- W123ベースの2ドアクーペC123が登場
- W123ベースのステーションワゴンS123を発表



1978

- ステーションワゴンS123の生産を開始

1979

- ステーションワゴン300TDが日本に導入される

1982

- 300TDに代わり、ディーゼルトターボエンジン搭載の300TDTを発売
- 230に代わり、インジェクション仕様の230Eを発売

高級車でありながら、最高の実用車としても評価されているミディアム・メルセデス。常に世界中のセダンに影響を与えてきたミディアム/Eクラスの歴史をたどってみよう。

Type 114/115 1968-1975

1968年1月、ダイムラーベンツ社は新しい小型モデルを発表した。コードネームは6気筒がW114、4気筒はW115。外観こそ上級モデルの250S/300SEに似ていたが、同社のラインナップにおいては最も小さく、いつしか“コンパクト・クラス”と呼ばれるようになる。

メカニズムの大きなトピックは、戦前から続いたスウィング・アクスルのリア・サスペンションに

に終止符を打ち、新たにセミトレーリングアームを採用して独立懸架を実現したこと。これによりキャンバー変化による路面追従性の悪化を抑制し、より高い次元の操縦安定性を手に入れた。

同68年11月にクーペを追加。これはセダンをベースにルーフを45mm低くして前後のウィンドーを寝かせ、ピラーレスのハードトップに仕立て上げたものだ。よって、ホイールベースはセダンと同じで、定員も5名のままだ。

73年にはマイナーチェンジを受け、外観にモディ



ファイが施された。だがこれは単なる見せ掛けだけの形状変更にとどまらず、実用主義の理念が反映されたものだった。雨や泥水でサイド/リア・ウィンドーが汚れるのを防ぐためのモールディングやレインガーター、汚れを付きづらくするためのテールランプの凹凸などは、いずれも視認性・被視認性を確保して安全性の向上に繋げようという思想に基づき取り入れられたものである。

初代コンパクトは76年1月に次期モデルW123が登場したあとも同年末まで生産された。

Type 123 1976-1984

76年1月のジュネーブ・ショーで第2世代のコンパクト、W123が発表された。高度な安全性と走行性能は先に登場していたSクラス(W116)の設計思想を受け継ぐもので、スタイリングからもそれは窺い知れる。サスペンションは、フロントがダブルウィッシュボーン、リアがセミトレーリングアームで全輪独立式。本国では200/230/250/280/280Eの5種のガソリン車、200D/220D/240D/300Dの4種のディーゼル車を設定。この中から日本には230/280E/240D/300Dが輸入された。

77年にはクーペ(C123)を追加するとともに、ステーションワゴンのTシリーズ(S123)を発表した。

クーペモデルは先代のC114ではセダンとほぼ同サイズだったが、このC123では全長とホイールベースをセダンよりも85mm短縮している。結果、軽快感のあるスタイリングと操縦性を実現した。

Tシリーズは大きな荷重のかかるリア・サスペン



ションに車高自動調整装置を標準で装備し、さらにオプションで分割可倒式リアシートや格納式サイドシート(日本仕様では標準装備)を用意して高い実用性を誇った。ラインナップはガソリン3種230T/250T/280TE、ディーゼル2種240TD/300TDの計5種。日本には79年から300TDが輸入され、82年にディーゼルトターボの300TDTがこれに代わっている。

123シリーズは初代コンパクトと同様に9年間のモデルサイクルをまっとうして、1985年1月にモデルチェンジが行なわれた。

Type 124 1984-1995



1984年にW123の後継車であるW124が本国デビュー。その前年に190シリーズ(W201)という“ニュー・コンパクトシリーズ”が登場したため、それまでの“コンパクト・クラス”という呼称は“ミディアム・クラス”に改められた。

ボディサイズはW123に比べると全長が15mm長い、全幅は40mm狭い。これにより前面投影面積が減少して、Cd値0.29の優れた空力特性の実現に役立った。サスペンション形式は、フロントがストラット、リアがマルチリンクで、代々受け継がれたセミトレーリング式リア・サスペンションとは決別している。

日本へは85年11月より2.3ℓ直4 SOHCの230E、3ℓ直6 SOHCの300E、3ℓ直6 ターボディーゼルの300DTが導入される。全車4段ATとの組み合わせだ。87年に260Eを追加するとともにABSを標準装備とした。

90年、小変更が施される。外観では、ボディサイド下部を保護するための樹脂製カバーが装着され、内装はダッシュボード下部およびドア内張りにウッドパネルを採用した。また、この年には、電子制御式パートタイム4輪駆動の300E 4MATICと300TE 4MATIC(ワゴン)、そしてDOHC24バルブエンジンを搭載した300E-24の3車種が追加された。

92年、燃費の向上などを狙い、エンジンをDOHC4バルブ化(ディーゼル車と4MATIC車は除く)。4.2ℓV8を搭載する400Eを追加するとともに、既存モデルの排気量を変更して、新ラインナップは220E/280E/320E/400E/500Eになった。このとき、運転席エアバッグを全車標準装備とし、助手席エアバッグをオプションで用意した(500Eでは標準)。

93年、フェイスリフトを受け、ボンネットがラジエターグリルに回り込むような意匠になり、SやCクラスと共通するイメージにまとめられた。また、前年に190EがモデルチェンジでCクラスに変遷したのに伴

い、ミディアムクラスもEクラスへと名称を変更した。

● ステーションワゴン

85年10月フランクフルト・ショーでW124シリーズのステーションワゴン“Tシリーズ(S124)”がデビュー。日本にはまず86年に230TEを発売して、89年に300TEを追加。92年にそれらを220TEと320TEに変更した。93年のマイナーチェンジでは既存モデルに手を加えると同時に、新たにE280ステーションワゴンを設定した。

● クーペ

87年3月、ジュネーブ・ショーでクーペモデル300CE(C124)を発表。日本では同年10月から導入された。この300CEは、90年に6気筒DOHC24バルブエンジンを搭載した300CE-24に切り替わる。92年には3.2ℓエンジン搭載の320CEがデビュー、このモデルは翌93年のマイナーチェンジでE320 Coupeとモデル名を変更した。

● カブリオレ

クーペ(C124)をベースにした320CEカブリオレ(A124)が発売されたのは92年のこと。ハードトップ並みのボディ剛性を確保するために約1000点のパーツを専用設計し、さらにリアシートの背後には車体転倒の際、自動的に飛び出すロールオーバー・バーを装備するなど、安全性に関して十分な配慮がなされていた。

● 500E/E500

90年10月のパリ・サロンで発表された500Eは、5ℓV8エンジンを搭載したこととボルシェに生産を委託したことで話題を呼んだ。日本では91年12月から発売された。93年にはタイプ124のマイナーチェンジに伴い、500Eの外観にも他モデルに準ずる変更が加えられ、名称もE500と改められた。同時に生産もそれまでのボルシェ本社工場からメルセデスの工場に移された。

1985

- W124発売。230E/300E/300DT

1986

- ステーションワゴン230TE発売



1987

- クーペC124登場
- 260Eを追加

1989

- ステーションワゴン300TEを追加

1990

- マイナーチェンジ。ボディ下部を保護する樹脂製カバーが装着された
- 電子制御式パートタイム4WDを採用した300E 4MATICと300TE 4MATICを追加
- DOHC 24バルブエンジンを搭載した300E-24(セダン)と300CE-24を発売

1991

- 5ℓV8を搭載する500Eを発売



1992

- 運転席エアバッグを全車標準化、助手席エアバッグをオプションとして設定
- エンジン変更とラインナップ見直し
- 4MATIC以外のガソリン車がDOHC4バルブに変更される
- 4.2ℓV8を搭載する400Eを追加
- 300Eは3.2ℓ直6の320Eに変更
- 260Eは2.8ℓ直6の280Eに変更
- 230Eは2.2ℓ直4の220Eに変更
- 300CE-24は3.2ℓ直6の320CEに変更
- 320CEカブリオレを発売



1993

- マイナーチェンジ
- ラジエターグリルまわりのデザインを変更
- ホワイトウインターレンズの採用
- バンパープロテクターのボディ同色化
- 名称をEクラスに変更
- 助手席エアバッグの全車標準化

1995

- W210発売。 E230(右)／E320(左右)／E320AVG(左右)

1996

- E400AVG(左)追加
- 電子制御5段AT搭載
- S210発売。E230ステーションワゴン(右)



1997

- 全車新開発V型エンジンを搭載。E240(右)／E320 4MATIC(左)／E430 AVG(左右)／E240ステーションワゴン AVG(左)
- ASR装備(E430AVG、4MATIC除く)
- エレクトロニックキーと車速感応ドアロックを採用

1998

- E430ステーションワゴン AVG追加
- セダンにSRSサイドエアバッグ、ウィンドーエアバッグを装備

1999

- マイナーチェンジが行なわれる
- ・ラジエターグリルの形状変更およびノーズを低く変更
- ・全モデルのラジエターグリルをアバンギャルドタイプに統一
- ・フロント／リアバンパー／サイド・プロテクションモールの形状変更
- ・リアコンビネーションランプの意匠変更
- ・ドアミラーをウインカー内蔵タイプに変更
- ・ドアシルカバーとバンパースポイラーの形状と色を変更(黒→ボディ同色)
- ・ドアハンドルをボディ同色化
- ・ESPを装備(4MATICとE430は既に採用済み)
- ・ドア内側の材質変更、ドアハンドル位置を後方に移設
- ・ティップスフト付き5段AT標準装備
- ・キセノンヘッドランプ&ヘッドランプウォッシャーをオプション設定(AVGは標準)

2000

- 240を2.6ℓエンジンに変更

2001

- E320とE430にスポーツラインを追加

Type 210 | 1995-2001



W124の後継車であるW210は1995年にデビュー。日本には95年10月から、2.3ℓ直4を積むE230、3.2ℓ直6のE320とE320アバンギャルドの3グレードが導入された。アバンギャルドは、専用アルミホイール、サスペンション、グリル、ガラス製スライディングルーフ、本革シート、バードアイ・メーブル・ウッドパネルなどを装備するグレードだ。

96年5月には、4.2ℓV8を搭載するE400アバンギャルドが当時の最上級グレードとして登場した。BOSEサウンドシステムなどを標準採用し、装備も充実していた。

97年8～10月、全車種に1気筒あたり3バルブの新開発V型SOHCエンジンを搭載する。これは、エンジン全長の短縮化によるクラッシュブルゾーンの確保と、排出ガスのクリーン化を狙ったものと言われている。これによりラインナップに変更が生じ、2.3ℓ直4エンジンのE230は2.4ℓV6のE240に、E400アバンギャルドは排気量が若干拡大してE430アバンギャルドとなった。E320／E320アバンギャルドはグレード名はそのまま、直6からV6に変わった。新型V6導入と同時に四輪駆動のE320 4MATICが追加されたが、その駆動方式は先代のパートタイム式からフルタイム式の4WDに変更されている。

98年8月、安全性向上のための対策が施される。従来の運転席、助手席、前席サイドエアバッグに加えて、後席サイドエアバッグ、ウィンドーエアバッグなどを標準装備とし、さらにE-callと呼ばれる緊急時通報装置をオプションで用意した。

99年10月にはマイナーチェンジを実施。変更／改良は1800ヵ所にも及び、エクステリアデザインもリファインされた。その内容は、ラジエターグリルやバンパーの意匠変更、ウインカー内蔵ドアミラーの採用、などである。安全面では、それまで

E430アバンギャルドとE320 4MATICに装備していた車両制御装置ESPを、全車に標準装着した。

2000年9月、E240に搭載されるエンジンが従来の2.4ℓから2.6ℓに拡大される。

01年1月、E320とE430にスポーツラインを受注生産車として設定する。その名称通りスポーティな雰囲気を強調したグレードで、AMGスタイリング・パッケージ(フロントスポイラー、サイド／リアスカート)、AMG18インチホイール&タイヤ、スポーツサスペンションを装着していた。

●ステーションワゴン

96年11月、セダンの導入から遅れること約1年、ステーションワゴン(S210)が発売された。ラゲッジスペース容量は最大1975ℓ(VDA方式)、床下には格納式のサードシートを備えて7名乗車を可能とした。なお、積載量の増減による車両姿勢の変化には、セルフレベルライザーで対応している。

当初はE230ステーションワゴンの一車種のみだったが、97年8月に後継グレードとしてE240ステーションワゴンが登場。同時にE320ステーションワゴンアバンギャルドと、その4MATIC版も新たに設定、いずれも新型V6を搭載するモデルだ。さらに、98年8月にはE430ステーションワゴンアバンギャルドを発売した。99年10月にはセダンと同様にマイナーチェンジを実施。このときサードシートが廃止されている。そして、00年9月、E240のグレード名はそのままに排気量を2.6ℓに拡大した。

●AMG

まずはW210の日本上陸と同時に、E320をライトチューンしたAMG E320が30台限定で販売された。そして、96年6月、AMGによってチューニングされた5ℓV8エンジンを積むE50を発売。97年10月にはE50に代わり、新型の5.5ℓV8を搭載するE55とE55T(ワゴン)が登場した。

Type 211 | 2002-2007



2002年、約7年ぶりのモデルチェンジを行ない、現行型となるW211をブリュッセル・モーターショーで発表した。スタイリングは先代のキープコンセプトだが、メカニズムには新技術を積極的に採用、ブレーキペダルの操作を電子回路でブレーキユニットに伝える電子制御油圧式ブレーキシステムSBC(全車標準装備)や、エアサスペンションと電子制御式ダンパーを組み合わせたAIRマテック DCサスペンション(一部モデル)などがその一例である。

日本には02年6月から順次導入を開始。当初のラインナップはE240(2.6ℓV6)、E320アバンギャルド(3.2ℓV6)、E500アバンギャルド(5ℓV8)の3グレードだった。

03年11月、E500に新開発の7段AT(7G-TRONIC)を搭載。同時にE320 4MATICアバンギャルドを追加。さらに05年2月には、ラインナップを見直し、E320系に代わるモデルとして、新開発3.5ℓV6エンジンを搭載するE350アバンギャルド、E350 4MATICアバンギャルドを発売した。

これに続いて05年8月に従来のE240系に代わるグレードとして新開発3ℓV6エンジンに7段AT(7G-TRONIC)を組み合わせたE280が登場。このとき、Eクラス全車に小変更を施して、アクティブライトシステムを加えたバイキセノンヘッドライト、追突事故などの際に乗員の頸部損傷を低減するネックプロ・アクティブヘッドレストシステムなどを採用している。

初のマイナーチェンジとなったのは2006年8月。3ℓV6エンジンを搭載するE300／E300アバンギャルドS、3ℓV6ディーゼルエンジンを搭載するE320 CDIアバンギャルド、5.5ℓV8エンジンを搭載するE550アバンギャルドSを新たに設定した。ヘッドライトやグリル、リアコンビネーションランプ、ステアリングなどの意匠を変更するとともに、「PRO-SAFE」の導入やパークトロニックの全車標準装備化を図った。07年12月、E320 CDIに改良を施し、輸入車初となる

新長期(平成17年)排出ガス規制適合車として発売。

●ステーションワゴン

ステーションワゴン(S211)は03年8月に追加された。荷室容量は通常650ℓ、最大で1950ℓ(VDA方式)。当初のラインナップはE240ステーションワゴンとE320ステーションワゴンアバンギャルドの2グレード。セダンと同様、電子制御式ブレーキシステムSBCを採用した。03年11月、フルタイム4WDのE320 4MATICステーションワゴンアバンギャルドと、5ℓV8エンジン搭載のE500ステーションワゴンアバンギャルドを追加。

05年2月にはE320系に代わる新グレードとして、E350ステーションワゴンアバンギャルドとE350 4MATICステーションワゴンアバンギャルドの2モデルを発売した。E240ステーションワゴンに代えて、05年8月、3ℓV6DOHCエンジン搭載するE280ステーションワゴンが登場する。

さらに06年8月、S211初のマイナーチェンジ。E320 CDIステーションワゴンアバンギャルド、E550ステーションワゴンアバンギャルドSを追加するとともに、セダンと同様に内外装の意匠変更を受け、ワゴン全車に「EASY-PACK自動開閉テールゲート」を標準装備した。07年12月、E320 CDIステーションワゴンアバンギャルドを新長期(平成17年)排出ガス規制に適合させている。

●AMG

W211のE55 AMGが登場したのは02年12月だ。5.5ℓV8スーパーチャージドエンジンを搭載し、スポーツサスペンション、強化ブレーキ、AMGデザインのエアロパーツなどを装備していた。

03年11月、ノーマルモデルのワゴン登場に合わせて、E55 AMGステーションワゴンを追加。

そして、06年8月に行なわれたマイナーチェンジと同時に、6.2ℓV8エンジンを搭載したE63 AMGのセダン／ステーションワゴンを導入。強化エアサスペンションや専用ボディパーツを装備した。

2002

- W211発売。E240(左右)／E320 AVG(左右)／E500 AVG(左右)
- E55 AMG(左)追加

2003

- ステーションワゴンS211発売。E240ステーションワゴン(右)／E320ステーションワゴンAVG(右)
- 4MATICをセダンとステーションワゴンに追加。E320 4MATIC AVG(左)／E320 4MATICステーションワゴンAVG(左)
- ステーションワゴンに車種追加。E500ステーションワゴンAVG(左)／E55ステーションワゴン(左)
- E500に7段AT(7G-TRONIC)を搭載
- E240アバンギャルドリミテッドを限定発売

2004

- E240／E320アバンギャルドリミテッドを400台限定発売

2005

- 新開発3.5ℓV6エンジン搭載車を発売。E350 AVG(左右)／E350 4MATIC AVG(左)／E350ステーションワゴンAVG(右)／E350 4MATICステーションワゴンAVG(左)
- E350アバンギャルドスポーツエディションを500台限定発売
- E350ステーションワゴンアバンギャルドスポーツエディションを250台限定発売
- 新開発3ℓV6エンジンを搭載するE280とE280ステーションワゴンを発売

2006

- マイナーチェンジが行なわれる
- ・ヘッドランプ／フロントグリル／フロントスポイラーの形状変更
- ・リアコンビネーションランプ／アルミホイールのデザイン変更
- ・「PRO-SAFE」を採用
- ・コーナーリングランプを採用
- ・パークトロニックを全車標準装備

2007

- E320 CDIリミテッド(右)を250台限定発売
- E250(右)を追加
- E320 CDIアバンギャルド(右)を新長期(平成17年)排出ガス規制に適合させ発売